

訪問リハビリテーションにおいて作業療法士と理学療法士が行っている内容とその比較

(医)らぽーる新潟 ゆきよしクリニック

作業療法士 大越 満

理学療法士 奥田哲也

【はじめに】

リハビリテーション(以下, リハ)において作業療法士(以下, OT)と理学療法士(以下, PT)は同じ内容を行うことがあり, 訪問リハにおいては, どちらか一方だけが関わることもあることから, よりその傾向は高まるといえる.

この研究の目的は, OTとPTが訪問リハにおいて行っている内容を明らかにすることと, その項目を比較することで訪問リハにおける両者の傾向を探ることとした.

【方法1-①】

1. **対象(OT)**: 訪問リハに従事しているOT153名を対象にした.
2. **調査方法**: 対象者全員に, 筆者が作成した自己記入式のアンケート用紙及び返信用封筒を2003年8月25日に郵送し約4週間後に礼状兼催促状を送った. 回収期間は約2ヶ月であった.

【方法1ー②】

3. アンケートの内容:「訪問リハにおいてこれまでに行ったことがある介入内容」を尋ねた。介入内容は「作業療法白書(日本作業療法士協会, 2001)」に挙げられている44項目を基にし, 筆者が細分化した項目を付加し計54項目を選択肢とした。

【方法2】

1. **対象(PT)**: 2008年3月15日に開催された「訪問リハ研修会」に参加したPT70名を対象にした.
2. **調査方法**: 対象者全員に, 方法1と同様のアンケート用紙を配布し, 研修会開催中に回収した.
3. **アンケートの内容**: 方法1と同様にした.

【結果の分析】

「行ったことがある」とした回答者の比率を項目ごとに算出し、OT、PT両群の比率を検定した。有意水準は1%とした。

なお、発表に際し対象者には文書もしくは口頭で同意を得た。

【結果1】

1: アンケート回収率

OT(方法1)は153名中58名(37.9%)から、PT(方法2)は70名中64名(91.4%)から回答を得た。訪問リハの介入内容の多さは訪問リハの経験年数に左右されるため、訪問リハの経験が1年目の者を除き、分析の対象をOT49名、PT30名とした。

【結果2】

2. 訪問リハで行ったことがある介入内容の項目数

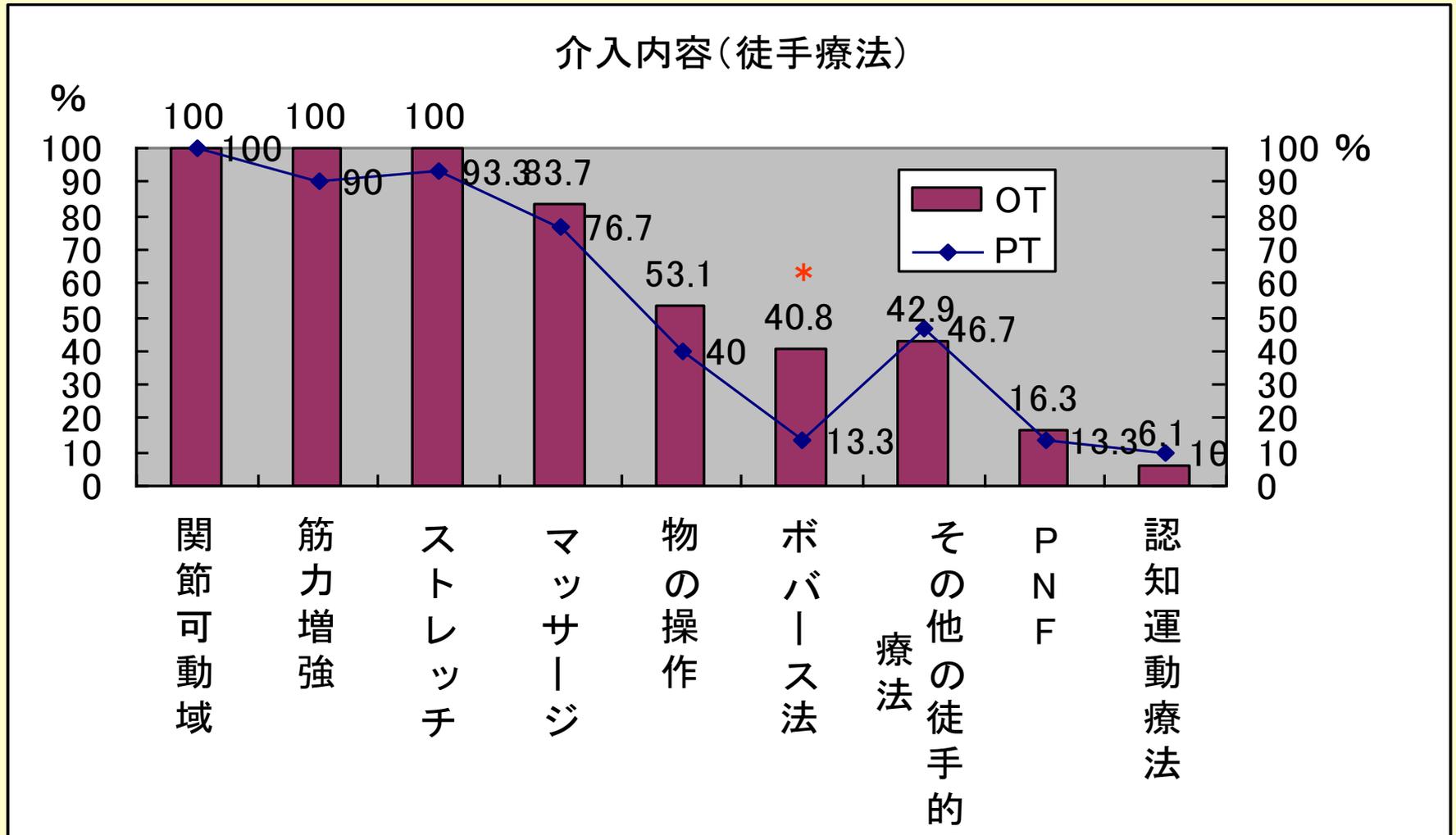
OT49名の平均は24.5個, PT30名の平均は16.0個であった.

表 訪問リハ経験年数と, 回答者が行ったことがあるとした介入内容数との関係

訪問リハ 経験年数	OT 介入内容数(平均)	PT 介入内容数(平均)
2~4年目	23.8	15.8
5~7年目	28.0	22.0
8年目以上	25.0	13.5

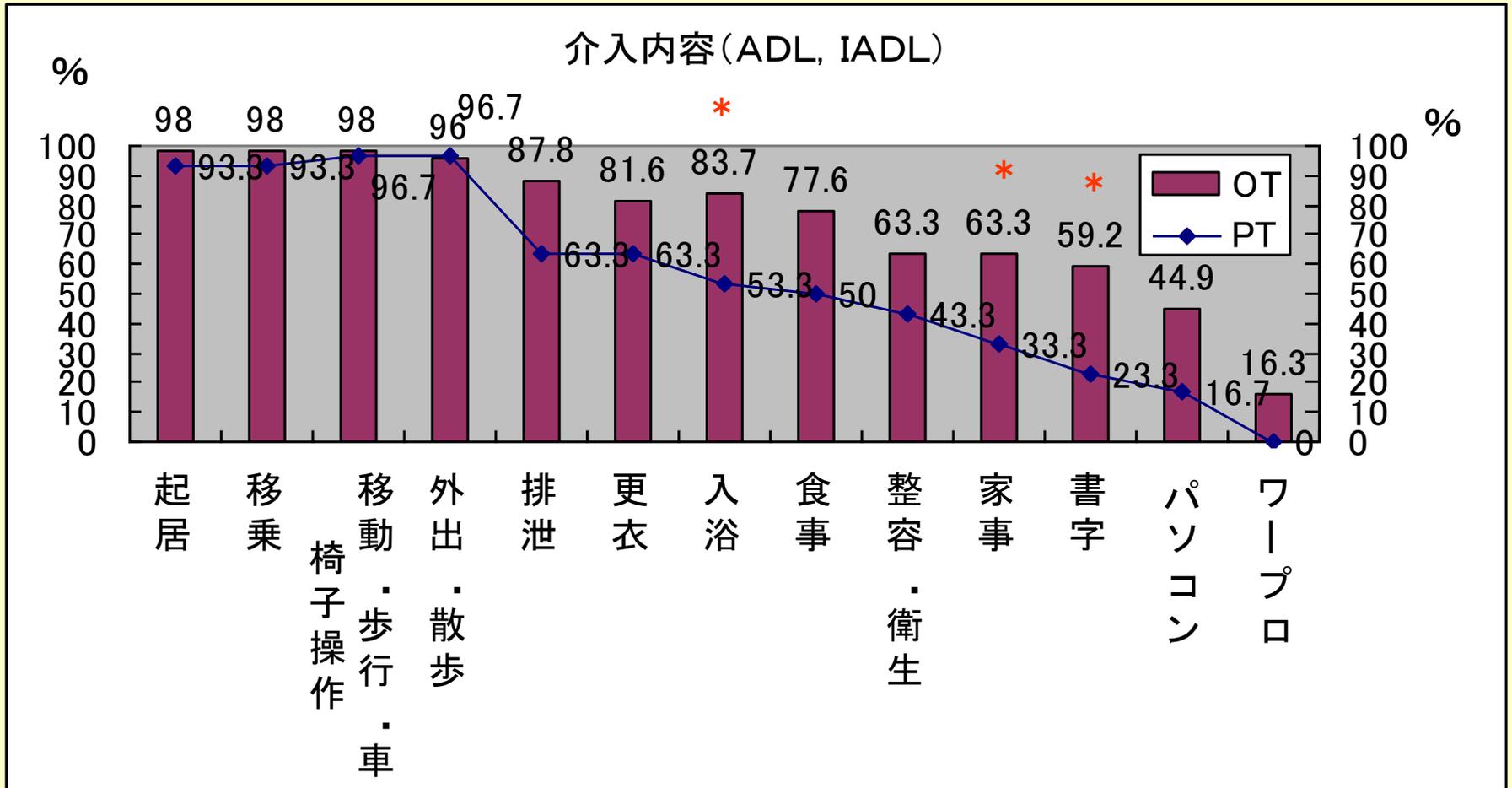
【結果3-1】

介入内容ごとの，訪問リハで行ったことがあると回答したOT,PTの比率(%)



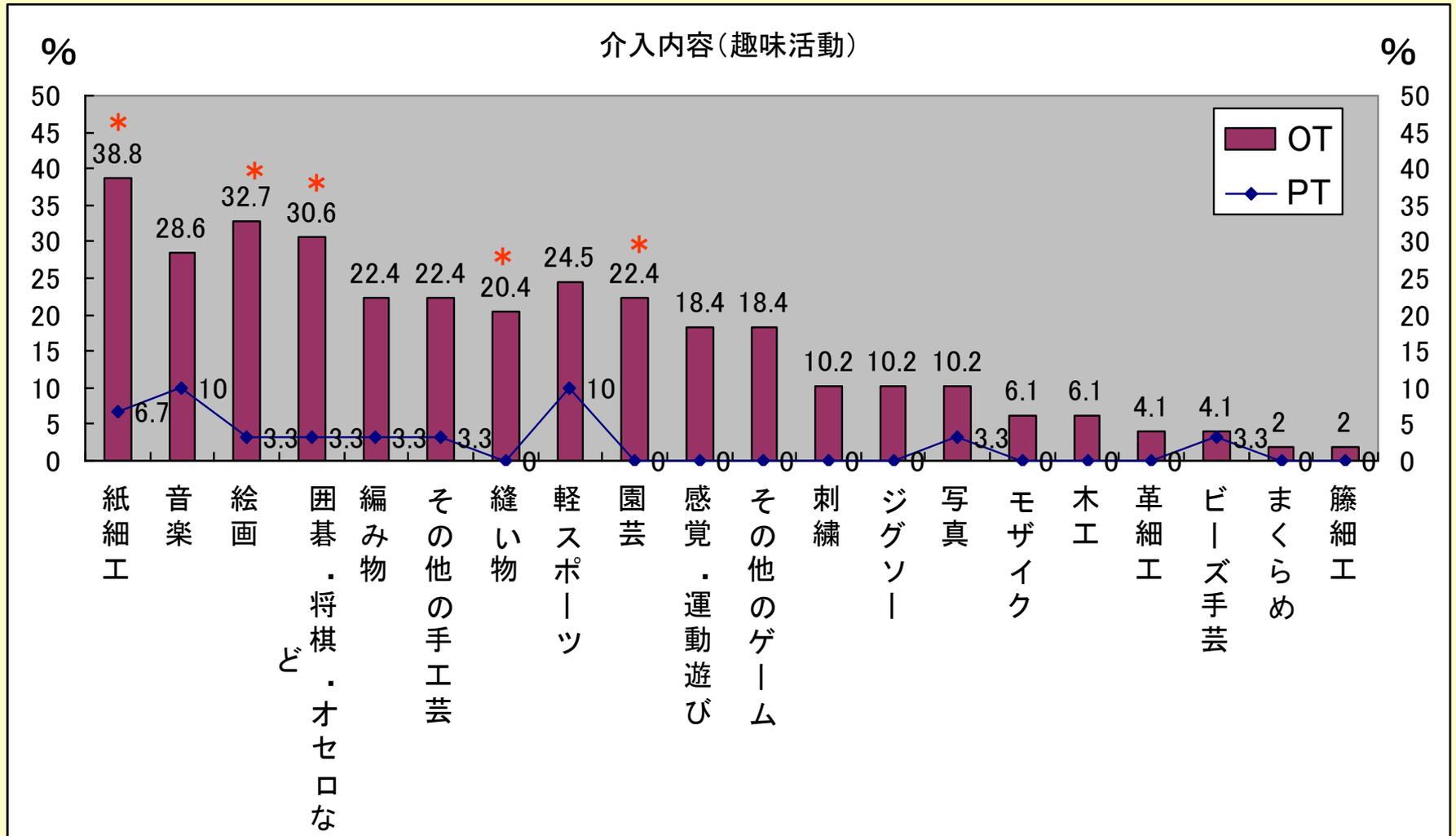
【結果3-2】

介入内容ごとの、訪問リハで行ったことがあると回答したOT,PTの比率(%)



【結果3-3】

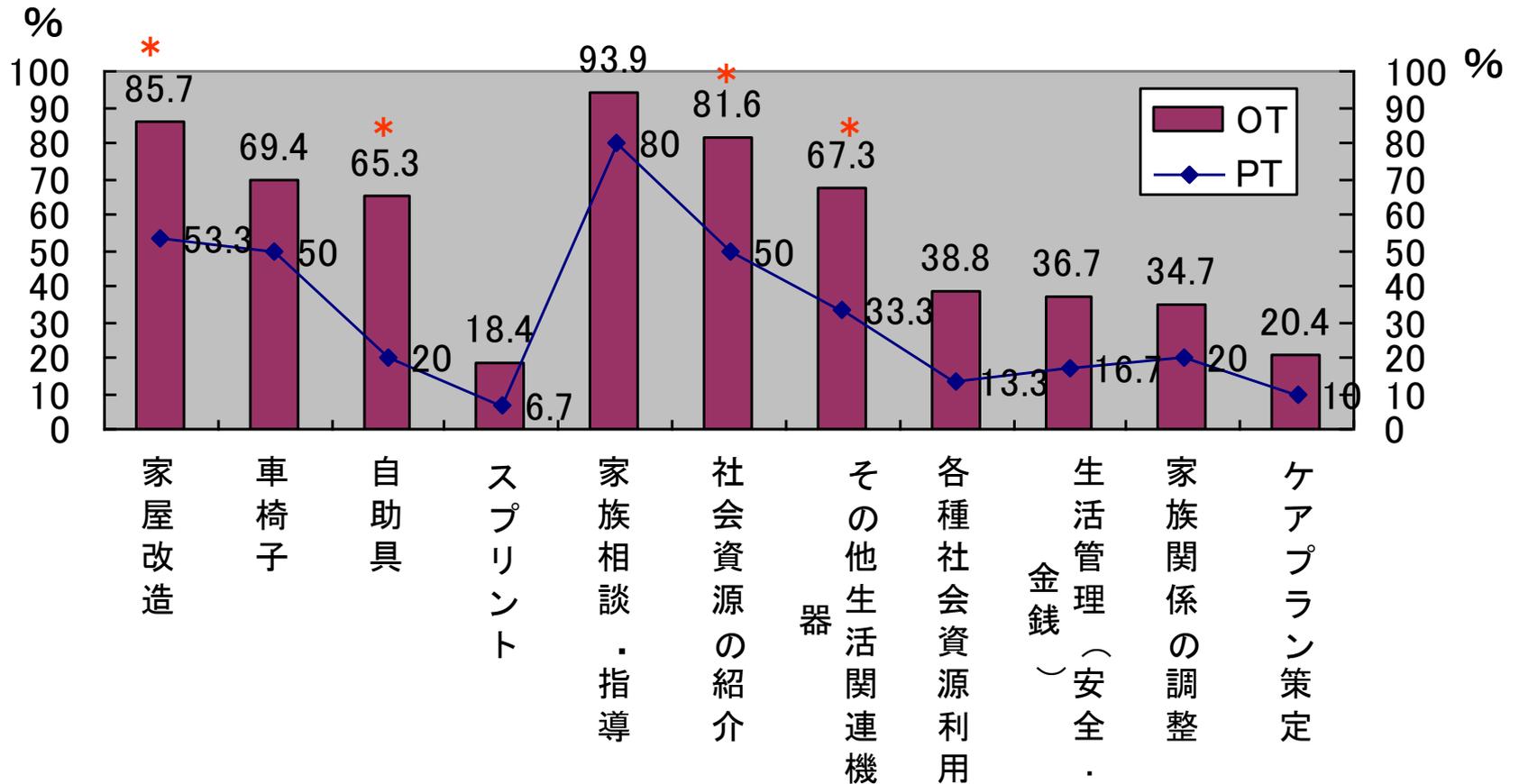
介入内容ごとの、訪問リハで行ったことがあると回答したOT,PTの比率(%)



【結果3-4】

介入内容ごとの、訪問リハで行ったことがあると回答したOT,PTの比率(%)

介入内容(その他)



【結果のまとめ】

- ・90%以上のOT,PTが行ったことがあると回答したのは、「関節可動域」「筋力増強」「ストレッチ」「起居」「移乗」「移動・歩行・車椅子操作」「外出・散歩」の7つであった。
- ・全体的に見ると、「ADL・IADL」「趣味活動」を行ったことがあるOTが、PTに比べて多い傾向があった。

【考察】

90%以上のOT,PTが行ったことがあると回答したことから、「関節可動域」「筋力増強」「ストレッチ」「起居」「移乗」「移動・歩行・車椅子操作」「外出・散歩」の7項目は、訪問リハにおいてOT, PTは分け隔てなく行っていると考えられた。この7項目にプラスして、特に日常生活活動に関することは、OT,PTとも分け隔てなく行うことが、今後、訪問リハが利用者にとって分かりやすく有益なことになると筆者は考える。

【研究の限界】

- ・OTとPTへの調査時期が違った,
- ・回答者の職場がOT,PTの分業をどの程度行っているかを考慮していない,
- ・介入内容の項目はOTに特徴的な項目が多く,言葉の定義が曖昧であった.

以上のことがこの研究の限界であり,今後の課題であった.